

令和5年度 事業報告

【認知症施策推進大綱5つの柱に沿って施策を推進】

1. 普及啓発・本人発信支援

①認知症サポーター養成講座の実施 別紙1-①②

実績：13か所、373名

②キャラバン・メイト意見交換会の開催

- 令和6年2月 キャラバン・メイトにアンケートを取り、次年度の意向確認や要望等を確認。
- 令和6年3月7日にキャラバン・メイト班長会を開催し、次年度の班編成や進め方を検討。

③世界アルツハイマー月間における広報

- 図書館において、認知症パネル展示、認知症関連パンフレット設置、認知症関連本の紹介。
- パオにおいて、認知症パネル展示、認知症関連パンフレット設置、認知症関連本の紹介、オレンジ作品展（認知症グループホームの作品展）、オレンジの花プロジェクト、「令和5年度認知症フォーラム」DVD上映。
- 西都市役所において、認知症パネル展示、認知症関連パンフレット設置、認知症関連本の紹介、オレンジの花プロジェクトを実施。
- 民生委員・児童委員定例会、各支所、図書館、パオ、生きがい交流広場、西都市西児湯医師会、市内調剤薬局、西都警察署、あさひデイサービス、西都バスセンターなどへパネル展示チラシの設置等を依頼。
- MRT宮崎放送「おしえて！みやざき」（9/16放送）の「地域で見守るよりよい暮らし」にて、認知症支援について紹介。
※映像は右QRコード参照。



④認知症フォーラムの開催 別紙2

- 日程：令和5年7月15日（土）13時30分～15時30分 西都市文化ホール
- 内容：第1部（講演）「認知症になっても希望をもって自分らしく生きる」
【講師：認知症希望大使 丹野智文氏】
第2部「認知症本人と子どもたちによるコラボ」（手話ソング・健康体操）
【出演者：グループホーム入居者、西都市児童館の子どもたち、西都手話サークル ひまわり、NPO法人さいと旗立て会、みやざき犬】
- 参加者：約300名
- 聞いてみたいテーマなど（令和5年度フォーラム時のアンケートより抜粋）
 - ・会社側（ネットトヨタ仙台）の話が聞いてみたい。
 - ・認知症本人（女性）や家族の話が聞いてみたい。

- ・過疎地や東京、福祉先進国の認知症事情。
- ・地域共生社会の実現に向けての取組み
- ・西都市の取組み、受けることのできる介護サービスやこれからの方針

- 令和6年度実施に向けて計画立案・準備。
- 講師や関係機関への依頼等。

⑤本人発信支援

- 認知症あんしんガイドに、「認知症本人ガイド」「認知症と共に生きる希望宣言」を掲載し、普及啓発。
- 「希望の道（認知症希望大使メッセージ動画）」を認知症フォーラムやあいそめ映画祭出前講座等で上映。
- 認知症本人が興味・関心のあることをできるように個別支援した。

⑥その他

- 広報さいと1月号に認知症に関する記事（早期発見のためのチェックリスト、声をかける時のポイント等）を掲載。

2. 予防

①既存事業や出前講座における認知症予防の情報提供及び社会参加活動の促進

別紙3-①②

- 実施回数：48回、参加者数：690名
- サロン、百歳体操、認知症カフェ、運転免許自主返納者等に認知症予防の情報を提供した。
- サロンや百歳体操など社会活動に参加されていない方へ参加を勧奨した。
- 出前講座の内容としては、認知症早期受診勧奨やMCI、コグニサイズ等をベースに地域の実情に応じて対応した。

② 運転免許自主返納高齢者（同意者）への実態把握

- 免許返納により社会活動が低下し、認知症発症のリスクが高くなる方に対し、実態把握と情報提供を行った。
 - 自宅訪問者：44件（北包括 13件／南包括 31件）
 - 電話等による状況把握：39件（北包括 15件／南包括 24件）
- 三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会主催の研修「認知症高齢者の自動車運転を考える～関係機関との連携した支援～」において、県外事例報告として「運転免許自主返納高齢者に関する情報連絡同意書制度の運用～地域で支え合える仕組みづくり」を推進員2名より発表した。

3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

①認知症地域支援推進員を各地区地域包括支援センターに1名ずつ配置

②認知症初期集中支援チームの活動 別紙4

○人員編成

専門医…松本 英裕 氏（社会医療法人暁星会 三財病院 医師）

専門職…中武 潤弥 氏（社会医療法人暁星会 三財病院 社会福祉士）

土持 由香 氏（合同会社 As a person 訪問看護ステーションいいな 看護師）

○実績：なし

③認知症カフェ（オレンジカフェ ホット・ハート in さいと）の開催 別紙3-③

○実施回数：12回 参加者数（延べ）：217名

○MRT宮崎放送「KAIGOへGO シーズン6」（12/20放送）にて、「妻高生妻みらい塾と健康管理課考案の認知症予防レシピの調理実習」（11/30実施）の様子が紹介された。

※映像は右QRコード参照。



④男性介護者カフェの開催 別紙3-③

○実施回数：6回 参加者数（延べ）：39名

※7月はオレンジカフェと合同開催のため回数、参加人数は除く

⑤認知症あんしんガイド（ケアパス）の見直し・作成、活用

○1,400部作成し、関係機関に配布

⑥医療機関とのネットワーク構築

○西都市西児湯医師会等を通じてケアパス、認知症フォーラムチラシ・ポスター等を配布。

○三財病院もの忘れ外来では、月1回のもの忘れ外来時、医師の診察後、医療ソーシャルワーカーが本人・家族と面談し、西都市の認知症施策を紹介。支援が必要な方については、本人・家族の了解を得て包括につなぎ支援を継続。

4. 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

①西都市認知症SOSネットワークメール配信

○メール配信実績：1件

（経緯）R6年1月29日の午後2時半、妻地区在住87歳男性が自宅から徒歩で行方不明となったため、警察から連絡があり、メール配信を行った。翌朝8時頃、佐土原方面で無事発見された。

- メール登録の呼びかけ：(個別) 実：19名 延：19名
 南：実17名 延：17名
 北：実2名 延：2名
- (集団) 回数：17回 人数：292名
 南：回数9回 人数161名
 北：回数8回 人数131名
- 防災メール：約2,271件送付→69件登録(1月)
 西都市公式LINE：4,012件送付→20件登録(2月)
- ※(参考)1月のメール登録勧奨(防災メール以外)
- ・防災メールの登録勧奨(危機管理課/全戸配布)
 - ・認知症サポーター養成講座(市役所職員/デイサービス)
- メール登録者数(合計)：975名(令和5年度登録者数：123名)

②西都市認知症 SOS ネットワーク事前登録

- 事前登録者数：17名(再掲：新規3名)
 R5年度解除者14名(内訳：入所・入院6名、死亡6名、その他2名)
- 見守りシール交付者数：10名(R5年度：新規1名)
- モニタリング実施数：29名

③認知症サポーターステップアップ講座の開催

- (第1回)参加人数：11名
 開催日：令和5年5月23日(火)
 内容：明治安田生命保険相互会社による認知症講座

- (第2回)参加人数：11名
 開催日：令和6年1月16日(金)
 内容：認知症の人と家族の一体的支援事業説明会

④ヘルプカード活用・推進

- ヘルプカード(緊急連絡先や必要な支援内容などが記載され、日常生活で困った際に、周囲の理解や支援を求めるためのカード)を既存事業で把握した認知症本人やその家族に紹介。
- ヘルプカードの利用を希望する認知症本人と一緒に、ヘルプカードを作成する。
- ・ヘルプカードの紹介 回数：26回、人数：519名
 南：12回、159名

北：14回、360名

・ヘルプカードの作成支援 人数：4名（南：2名、北：2名）

⑤認知症本人の社会参加支援

○認知症本人が興味・関心のあることをできるように個別支援した。

⑥認知症の人と家族の一体的支援事業

実施回数：1回 参加者数（延べ）：11名

⑦県が設置している若年性認知症コーディネーターによる相談窓口の周知

○ケアパスに相談窓口を掲載。

○県が作成している「若年性認知症コーディネーターチラシ」と「若年性認知症ハンドブック」を市民課、福祉事務所、ハローワーク等に配布し、世界アルツハイマー月間でのパネル展示であわせて展示。

○対象者に応じて推進員が若年性認知症コーディネーターと連携した。

5. 研究開発・産業促進・国際展開

国の動向を随時確認し、必要に応じて発信する。

令和6年度 事業計画

【認知症施策推進大綱5つの柱に沿って施策を推進】

1. 普及啓発・本人発信支援

①認知症サポーター養成講座の実施

- 小中学校、妻高校等
- 職域への受講勧奨（金融機関、西都衛生公社、医療機関、介護保険事業所、商工会議所等）

②キャラバン・メイト意見交換会の開催

- 令和6年4月12日（金）にキャラバン・メイト意見交換会を開催し、新テキストの説明や班ごとに連絡方法等を確認。

③世界アルツハイマー月間における広報

- 西都市役所、図書館、パオ等において、認知症パネル展示、認知症関連パンフレット設置、認知症関連本の紹介、オレンジ作品展（認知症グループホームの作品展）等を実施。
- オレンジの花プロジェクトの実施。
- オレンジカフェ参加者やオレンジパートナーにも協力依頼する。

④認知症フォーラムの開催

別紙5、6

- 日時：令和6年7月14日（日） 開演：10時30分～12時20分（開場：10時）
場所：西都市文化ホール コミュニティプラザパオ 3階
テーマ：認知症になってもだいじょうぶ！ともに生きる西都市を目指して
講師：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ代表 藤田 和子 氏
定員：415名

⑤本人発信支援

- 「希望の道（認知症希望大使によるメッセージ動画）」を出前講座等で上映する。
- 既存事業（認知症SOS事前登録、運転免許自主返納者の実態把握、認知症カフェ、百歳体操、個別相談時等）、関係機関との協働において、認知症本人の声を聴き、施策に反映する。
- 認知症本人やその家族にヘルプカードを紹介。必要に応じて一緒に作成する。
- 認知症本人の興味・関心のあることをできるように支援する。

⑥その他

- 広報さいと9月号や包括だよりに認知症に関する記事を掲載

2. 予防

①既存事業や出前講座における認知症予防の情報提供及び社会参加活動の促進

- サロン、百歳体操、認知症カフェ、運転免許自主返納者等に認知症予防の情報を提供する。
- サロンや百歳体操など社会活動に参加されていない方へ参加を勧奨する。
- 出前講座の内容としては、認知症早期受診勧奨やMCI、コグニサイズ等をベースに地域の実情に応じて対応する。
- 必要に応じて、主任ケアマネージャー・保健師・社会福祉士3職種や第1層生活支援コーディネーター等とも協働する。

②運転免許自主返納高齢者（同意者）への実態把握

- 免許返納により社会活動が低下し、認知症発症のリスクが高くなる方に対し、実態把握と情報提供を行う。
- 認知症本人やその家族にヘルプカードを紹介。必要に応じて一緒に作成する。

3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

①認知症地域支援推進員を各地区地域包括支援センターに1名ずつ配置

②認知症初期集中支援チームの活動

別紙4

（人員編成）

- 専門医…松本 英裕 氏（社会医療法人暁星会 三財病院 医師）
- 専門職…中武 潤弥 氏（社会医療法人暁星会 三財病院 社会福祉士）
- 土持 由香 氏（合同会社 As a person 訪問看護ステーションいいな 看護師）

③認知症カフェ（オレンジカフェ ホット・ハート in さいと）の開催

別紙7

毎月第4木曜日 13時30分～15時00分

④誰でもカフェの開催

別紙8

奇数月第2金曜日 13時30分～15時00分

⑤認知症あんしんガイド（ケアパス）の見直し・作成、活用

別紙10

- 1,400部作成し、関係機関に配布。市のホームページに掲載。
- 令和5年10月に新版が発行された認知症サポーター養成講座標準教材を参考に見直しを行う。

⑥医療機関とのネットワーク構築

- ケアパス配布、認知症フォーラムやパネル展示の広報時、情報交換する。

4. 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

①西都市認知症SOSネットワークメール配信システム

- 認知症施策推進会議において、西都警察署、西都市消防本部、西都市民生委員児童委員協

議会を招き、意見交換。

- 西都市民生委員児童委員協議会、居宅介護支援事業所主任者会議、認知症サポーター養成講座、認知症カフェ等、既存事業や既存社会資源での登録の呼びかけを実施。

②西都市認知症 SOS ネットワーク事前登録

- 市民や関係機関に広く周知し、認知症の方を地域で見守る体制の構築につなげる。
- 居宅介護支援事業所主任者会議にて情報提供を行い、認知症により行方不明になるリスクの高い方を中心に呼びかけを実施。
- 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所が把握した認知症による行方不明者について、年1回の報告を依頼。行方不明者の状況を把握し、認知症施策につなげる。
- 認知症本人やその家族にヘルプカードを紹介。必要に応じて一緒に作成する。

③チームオレンジの構築

- ステップアップ講座の開催。
- オレンジカフェや一体的支援事業、個別支援等をとおして、認知症本人や家族のやりたいこと・困りごととオレンジパートナーとのマッチングを支援する。

④ヘルプカード活用・推進

- ヘルプカード（緊急連絡先や必要な支援内容などが記載され、日常生活で困った際に、周囲の理解や支援を求めるためのカード）を、既存事業（事前登録者、チームオレンジ、オレンジカフェ、免許自主返納高齢者等）で把握した認知症本人やその家族に紹介。
- ヘルプカードの利用を希望する認知症本人と一緒に、ヘルプカードを作成する。

⑤認知症本人の社会参加支援

認知症本人が興味・関心のあることをできるように個別支援する。

⑥認知症の人と家族の一体的支援事業「元気を出そう会」

別紙9

毎月第3金曜日 13時30分～15時00分

⑦県が設置している若年性認知症コーディネーターによる相談窓口の周知及び連携

- ケアパスに相談窓口を掲載する。
- 対象者に応じて認知症地域支援推進員が若年性認知症コーディネーターと連携する。
- 県が作成している「若年性認知症コーディネーターチラシ」と「若年性認知症ハンドブック」を関係機関に配布する。

5. 研究開発・産業促進・国際展開

国の動向を随時確認し、必要に応じて発信する。